

# 飛翔

第44号

社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団

〒890-8517 鹿児島市鴨池新町1番7号鹿児島県社会福祉センター4F  
TEL 099-257-7667 FAX 099-259-3939  
E-mail syakai-j@topaz.ocn.ne.jp  
URL www.kagoshima-swc.jp

鹿児島県社会福祉事業団のシンボルマークを制定しました



社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団  
Kagoshima Social Welfare Service Corporation



## 新年を迎えて

理事長 白尾 國豊

新年あけましておめでとうございます。  
新春を迎え、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げますとともに、日頃から当事業団にお寄せいただいておりますご支援とご協力に対し心より感謝申し上げます。

さて、昨年は、当事業団にとりまして設立五十周年という記念すべき年でありました。十一月一日には、事業団設立五十周年記念式典を開催いたしました。ご来賓の方々をはじめ、関係の皆様にご多数ご出席いただき、盛会裏のうちに式典を終えることが出来ました。改めて感謝申し上げます。

また、知的障害者援護施設の「川内厚生園」と「川内自興園」とを一体化して新たな建物整備を行い、身体障害者更生援護施設「ゆすの里」とともに障害者支援施設としてのスタートを切りました。併せて、両施設は障害者自立支援法に基づく新事業体系への移行も行いました。また、児童養護施設「若葉学園」の全面改築も行いました。昨年は、当事業団にとって新たなスタートの多い一年でありました。

ところで、今年度は、後期経営改善計画の最終年度に当たることから、現在、新たな経営計画の策定に取り組んでいるところでもあります。これまで経営改善計画に基づき、組織機構の改革や新たな給与制度の導入、財政基盤の強化などに取り組んでまいりましたが、より良い事業団の確立を目指すため、これまでの実績の再評価を行いながら、次期経営計画に盛り込むべき事項を検討・整理しているところとあります。新年度からは、新たな経営計画に基づき、より一層着実な事業運営に努めてまいりたいと考えております。

また、これまでと同様、利用者の方々により安心・安全で質の高いサービスを提供するとともに、様々な福祉ニーズに応えるべく当事業団の責務を果たしてまいりたいと考えておりますので、関係の皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますようにお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

## CONTENTS

・特集～事業団設立50周年記念式典～	2
・特集～シンボルマークの制定について～	4
・ねっとわーく～施設の窓から～	6
・利用者の声	9
・理事会・評議員会	10
・シリーズ“男”	12

# 特集 事業団設立50周年記念式典を行いました!!

当事業団は、今年度設立五十周年を迎えました。今回の飛翔では、平成二十四年十一月一日に行われました、設立五十周年記念式典の様子と事業団の歴史について特集します。

設立五十周年記念式典は、多数のご来賓の方々や関係の皆様方のご出席を賜り盛大に行うことができました。式典の会場には、事業団が運営する各施設の歴史と思い出の詰まった写真パネルを飾り、それぞれ皆さん当時の思い出をよみがえらせておられました。

また、記念式典では、オーピングセレモニーとして、鹿児島みなみ保育園園児によるお遊戯があり、理事長の式辞、日頃から各施設に温かいご支援をいただいている皆様への感謝状の贈呈式、鹿児島県知事 伊藤祐一郎（代理）

県保健福祉部長 松田典久様、鹿児島県議会議長 金子万寿夫 様、鹿児島県社会福祉協議会会長 溝口宏二 様の三名の方からご祝辞をいただきました。

最後に、志学館大学山喜教授を迎え、「今どきの子ども・若者（こころ）事情」と題し記念講演をいただき、閉会いたしました。短い時間での記念式典ではございましたが、当事業団の歴史を随所に感じることのできる素晴らしい記念式典となりました。

これもひとえに鹿児島県をはじめ、関係市町村、関係諸団体、地域の皆様方の日頃からの温かいご支援、ご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

## 当事業団の歩み

当事業団は、昭和三十七年七月二日、戦前からの、また戦中・戦後の鹿児島福祉事業の流れをくむ社会福祉法人鹿児島県社会事業協会と社会福祉法人鹿児島県援護会が、合併して設立されたものであります。

設立当初は、養護老人ホーム「慈眼寺寿光園」や児童養護施設「仁風学園」、「若葉学園」など引き継いだ七つの施設の経営を行ってまいりましたが、その後、地方自治法の改正等により県立施設の受託運営が可能となり、昭和三十九年から昭和五十三年にかけて宿所提供施設「郡元寮」や知的障害者授産施設「川内自興園」等併せて五県立施設の運営を順次受託いたしました。

最近では、平成十五年に国・県から「かごしま障害者就業・

生活支援センター」を受託し、また、それまで運営を受託しておりました県立施設五施設のうち、昭和六十一年に廃止された「郡元寮」を除く四施設について、平成十六年から平成二十三年にかけて、順次移譲を受けてまいりました。

また、五十年の歴史の中で、施設の老朽化が目立ってきましたことから、平成二十一年に「同胞保育園」、平成二十三年に「鹿児島みなみ保育園」、平成二十四年には「若葉学園」及び知的障害者援護施設「川内厚生園」と「川内自興園」を統合した「新たな川内自興園」の全面改築を行ったところであります。

このように当事業団は、これまでいろいろな変遷を経ながら、現在では九つの施設を経営し、職員数も三百人を超える社会福祉法人へと発展を遂げてまいりました。





## 特集

# 鹿児島県社会福祉事業団の

# シンボルマークを制定しました!!

今年度当事業団は、設立五十周年を迎えました。平成二十四年十一月一日には、設立五十周年記念式典も盛大に開催され、改めて五十年の歴史と伝統を感じさせられたところでした。

今回、当事業団が設立五十周年を迎えたことを記念し、鹿児島県社会福祉事業団のシンボルマークが誕生しました。これから、鹿児島県社会福祉事業団の存在意義を示すものとしてこのシンボルマークを活用していきたいと思えます。また、このマーク入りの印刷物、機関紙等を目にする機会が増えていくことで、このマークとともに鹿児島県社会福祉事業団の活動がより一層地域に開かれたものとな

るよう努めていきます。

### マークが

### 誕生するまでの経緯と

### マークへの思い

このシンボルマークが誕生したきっかけは、職員からの「これまで当事業団には、シンボルマークがなかったことからシンボルマークを制定してはどうだろうか。」との提案によるものでした。当事業団には今までシンボルマークというものがなく当事業団をアピールするという点では弱いところがありました。さっそく、シンボルマークのデザイン案を職員から募集し、合計七点の作品の応募がありま

した。同時に、職員提案要綱に基づく審査委員会の開催や、職員アンケートを実施し、制定について検討を進めました。職員アンケートの結果、七点の作品の中から、鹿児島県社会福祉事業団が運営する四つの福祉（児童・障害者・高齢者・女性）を「心」の象徴であるハートでうまく表現したこのマークが第一位となり、この作品を鹿児島県社会福祉事業団のシンボルマークとして制定することとなりました。

このマークには、「個々の職員一人ひとりが福祉従事者としてのプロ意識を持ち、多様化・複雑化した福祉ニーズに応えるべく鹿児島県社会福祉事業団職員としての帰属意

識を高めるとともに、利用者に対し、優しく、心のこもった福祉サービスを提供することとさらに県民福祉の増進に寄与したい。」との強い思いが込められています。

このシンボルマークとともに、これまでの当事業団の五十年の歴史と伝統を次に繋いでいくためにも、さらなる努力を重ねていきたいと決意をあらたにしているところであります。今後とも末永くご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



### コンセプト

鹿児島県社会福祉事業団が運営する児童・障害者・高齢者・女性の4種の福祉を「心」を象徴するハートで表現し、中心に鹿児島県の頭文字「K」を表したデザインで、優しく、心のこもった福祉サービスを提供し、県民福祉に寄与することを示しています。

#### 【配色について】

4つのハートは暖かい雰囲気の間色で、「K」のマークは広く透き通った空と海の色である「青」で表現しました。

### 使用例



社会福祉法人  
鹿児島県社会福祉事業団  
Kagoshima Social Welfare Service Corporation



社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団  
Kagoshima -swc



# わっとなわーく

施設の窓から

## 児童養護施設 若葉学園 九州児童福祉施設球技大会



夏の暑さも厳しい八月二十三日～二十四日の二日間で、九州児童福祉施設球技大会が福岡県北九州市で開催されました。昨年投手をしていた児童が二人卒園し、投手作りから始めた九州大会出場が目標のチームで、始めはぎこちなさのあった年下の子どもたちもキャプテンを中心に日に日に

まとまりが出てきて良いチームに仕上がりました。一回戦では最終回まで一対〇で負けていた試合をチーム全員の力で逆転する底力を見せてくれました。その後も準決勝まで勝ち進み、第三位の好成績を収める事ができました。これもひとえに子どもたちの自主的な練習と、サポートして下さった周りの方々のおかげだと思います。



今年も共に笑い泣き、汗を流し、職員も子どもたちもお互いにたくさん事を学んだと思います。若葉野球で学んだ事を糧にして、自信を持って社会に飛び立って行けるのではと思わせてくれる大会となりました。

児童指導員 横山 勉

## 保育園 同胞保育園 鹿児島みなみ保育園

### 芋掘り遠足

芋掘りの季節になりました。十月二十九日に同胞保育園さくら組、鹿児島みなみ保育園さきりん組の子どもたちで大型バスに一時間程ゆられ川内自興園へ芋掘り遠足に行きました。子どもたちは芋掘り遠足を楽しみにしていました。「いくつ採れるかな」「ぼく、いっぱい、いっぱい採るぞ」と畑に着く前から大興奮です。

幸いお天気にも恵まれ、芋畑に入ったとたん、気分はずでに芋掘り名人！…しかし、サツマイモは大きいものばかり

りで子どもたちの力だけでは掘れず、川内自興園の利用者の方や職員の方にお手伝いを頂きながらいっぱい採ることができました。ツルを引張ったら、ミミズや幼虫が顔を出し、にぎやかでした。



栄養士から「サツマイモはどこで大きくなるのか、葉っぱはどんな形をしているのか見てきてね。」の宿題も出たので、みんなでいっぱい観察をしました。サツマイモは土の中で育つという事はもちろん知っていましたが、葉っぱの形を知らなかった。「ハートの形だ！」と分かった子どもたちは大喜びでした。土やサツマイモの葉っぱ

やツルの感触も味わうことができました。

昼食後は、川内自興園・鹿兒島みなみ保育園・同胞保育園で交流会をしました。各保育園でお遊戯や合唱、手話を披露しました。またプレゼント贈呈をすると、お返しに子どもたち一人ひとりに袋いっぱいのお芋を頂きました。自分たちで掘ったサツマイモを手にした子どもたちは、嬉しそうな表情でした。

サツマイモは家で天ぷらにしたり、ふかし芋にしたりして美味しく食べたそうです。秋を満喫した体験ができました。

保育士 嘉 真喜乃



障害者支援施設 ゆすの里  
スポーツを通して絆を深める



十一月十日、第十二回ゆすの里ふれあいスポーツ大会が行われました。

利用者とその家族および職員がスポーツを通してお互いの理解と親睦を深めるために、毎年行っている恒例の大会であり、また、利用者の方々が日頃の訓練等の成果を発揮する場でもあり、一生懸命頑張っていました。

利用者と家族が一体となってバレーボール、風船、テニ

スポール、ピンポン玉をラケットに乗せて、体育館内を一周する「絆」やスポーツリハビリで行っているグラウンドゴルフ、スキルショット、ダーツで競う「GO!GO!GO!GO!」、定番の「玉入れ」などで大いに盛り上がりました。

家族の皆様には、川内自興園で収穫した野菜などの景品があり、大変喜ばれている様子でした。

また、ボランティアの方にも協力をいただき、スムーズな大会進行ができました。

利用者、家族、ボランティア、職員と多くの人々の交流の場となり、絆を深めるよい機会となりました。

支援員 十島 太郎



児童養護施設 仁風学園  
コンサルテーション



今年度より新規事業としてコンサルテーションを始めました。コンサルテーションとは、コンサルタント（臨床専門家）によるコンサルティ（他の専門家）への助言や指導を意味することが多くあります。

当学園では、コンサルタントを外部の心理臨床家、コンサルティを児童指導員（以下、職員）と捉え、年間を通してコンサルテーションを行っていくことになりました。第一回目は新任職員研修、第二回目は援助方針を立てるための

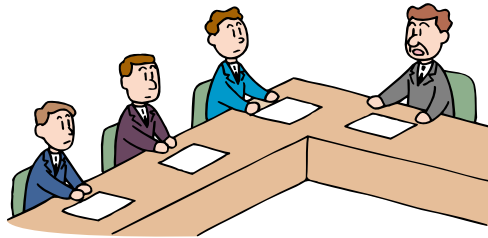


事例検討会、第三回目は第二回目で立てた援助方針の評価、第四回目は総括として、現在第二回までを終えたところ。外部の心理臨床家として、児童・思春期心理治療が専門の大学教授に年間を通しての契約を依頼しました。

第一回目は、新任職員から日々児童の生活支援をする中で、困ったことや疑問に思ったことを提示してもらい、大学教授に助言をいただきました。職員が自己理解を深めるためのエゴグラムの実施、障害告知とは何か、施設で暮らす子どもたちの特徴など、どの職員も日頃の業務で感じることの多い迷いを全体で共有することができ、発想の転換や児童を見立てることの重要性を感じることができました。

第二回目は、男女棟から一事例ずつあげて、事例検討会を行いました。パニックを起こす小学校低学年の男児と進路決定に迷う中学生の女児の事例でした。男児の事例では、男児の特性に合わせた生活支

援が見直され、パニックが起こつてしまう要因や男児の好きなキャラクターを活用しての支援について話し合いました。女児のケースでは、女児の生育歴を振り返り、その心の傷を理解して、担当職員のみならず職員全体で支えていくことの必要性和、学校側とも密な連携をとって支援していくことが求められることがわかりました。



この新たな事業は、職員の資質向上を図ることを目的としています。何よりも支援を受ける児童のこれからの幸せのために、次回からのコンサルテーションも良き会にな

ればと切に願うところです。

心理士 名城 卓哉

慈眼寺寿光園

開園五十周年を迎えて

慈眼寺寿光園は、昭和三十七年六月に鹿児島県社会事業協会が慈眼寺養老院として、ここ谷山の地に開園しました。そのころは、見渡す限り畑と田んぼにおおわれ、のどかな所だったようです。

昭和三十八年十月に「養護老人ホーム慈眼寺寿光園」と名称を変更し、今年六月に開園五十周年を迎えました。



十一月二十四日には、利用者の方々、家族の皆様、利用者の生き甲斐作りのお手伝いをされている各文化クラブ講師の方々、第三者委員会の三名の方々、ボランティアの皆様などが集い、ささやかなお祝いをしました。



利用者の方々は、いつもより、ちよつとおしゃれな格好で、男性は背広や着物、女性はスーツやワンピースで、晴れやかに、来賓者や園長の挨拶に耳を傾けていました。

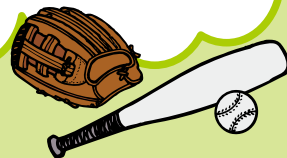
これまでの先輩達の培った伝統を大切に、多くの方々に支えられていることを心に刻み、社会保障制度の変遷に対応しながら、地域に必要とされ笑顔の絶えない施設を目指して、これからも、歩んでいきたいと思えます。

生活支援員 國光 政江





**児童養護施設 仁風学園  
若葉学園に西郷輝彦さん来園!!  
寄贈品を頂きました♪**



九月二十六日に寄贈品を子どもたちに渡したいと、歌手の西郷輝彦さんが来園されました。有名人のオーラに子どもたちより職員の方が緊張してしまい、子どもたちから「いつもと違うね」と言われてしまいました。寄贈式では、西郷輝彦さんから少年野球用のグローブ、バット、ボール、液晶テレビ、DVDデッキと全児童にお菓子を頂きました。子どもたちは「野球の練習を今まで以上に頑張る」「見たい番組を録画できるようになった」など、とても喜んでいました。寄贈式の後、お忙しい中子どもたちとのふれあいの時間を設けていただき、一緒に写真撮影を行うなど子どもたちと職員共々楽しい時間を過ごしました。

**利用者さんの声**

**第五回  
南日本ジュニア美術展**

九月十四日から二十三日まで鹿児島市立美術館に於いて開催された第五回南日本ジュニア美術展で、菊花寮の利用者さんが見事、特選を受賞しました。ジュニア美術展への応募は軽い気持ちだったそうですが、「初めての冬」の題目で一人娘のかわいい姿を絵にしてこの賞を受賞し、とてもよい記念になったと笑顔で答えてくれました。



**第十二回全国障害者  
スポーツ大会に参加して**

十月十三日～十五日に行われた第十二回全国障害者スポーツ大会ぎふ清流大会に、溝口晃洋さん（川内自興園）と村上達朗さん（ゆすの里）が鹿児島県代表としてこの大会に出場しました。その結果、溝口さんは、ソフトボール投げ・ジャベリックスローで金メダル、村上さんはソフトボール投げ・五十m走で金メダルを獲得しました。溝口さんはジャベリックスロー、村上さんはソフトボール投げで大会新記録という優秀な成績をおさめられました。

また、溝口さんは今回二度目の全国大会出場でしたが、鹿児島県代表の旗手にも選ばれ競技以外にも貴重な体験をされました。

溝口さんは「旗手は代表としての責任があり、とても緊張しました。三日目の全国大会を目指して、今後も練習を頑張ります。」村上さんは「今大会は、ソフトボール投げ二部での新記録でした。今後は、一部の記録も更新できるよう頑張ります。」と報告があり、二人にとって自信のついたスポーツの秋となりました。



# 報 告

## 理事会

- 平成二十四年度十一月までの理事会は、次のとおり開催され議案については、審議のうえすべて決定されました。  
平成二十四年五月二十九日
- 議案第一号  
平成二十三年度事業報告 (案) について
- 議案第二号  
平成二十三年度決算 (案) について
- 議案第三号  
副理事長の委嘱について
- 議案第四号  
評議員の委嘱について
- 議案第五号  
次期評議員の委嘱について  
平成二十四年七月二日
- 議案第一号  
理事長の選任について
- 議案第二号  
副理事長及び常務理事の委嘱について

## 評議員会

- 平成二十四年五月二十八日  
議案第一号  
平成二十三年度事業報告 (案) について
- 議案第二号  
平成二十三年度決算 (案) について
- 議案第三号  
次期役員を選任について

## 平成二十四年度 事業団職員研修

### 事業団全体研修

- 平成二十四年六月二十八日 (第一班)  
平成二十四年七月 五日 (第二班)  
(研修事項)
- 一 理事長訓話
- 二 「誰もが幸せに生きるために」～昨今の人権同和問題について～
- 県人権同和対策課  
研修専門員 前田隆幸氏
- 三 「社会福祉の現場における効果的なコミュニケーションの技法を学ぶ」

ハピネスサポート研究所  
代表 佐々木のり子氏

### 階層別研修

今年度の階層別研修は、昨年同様、(株)川原経営総合センターへ研修委託をし、各階層ごとに次の内容について研修を実施しました。

#### ・施設長研修

平成二十四年十一月二十二日 (研修内容)

- 一 福祉施設の経営分析
- 二 経営計画策定について

#### ・新任職員研修

平成二十四年七月三十一日 (研修内容)

- 一 理事長挨拶
- 二 組織人として期待されること

#### ・経験者研修

平成二十四年八月二十八日 (研修内容)

- 一 理事長挨拶
- 二 組織人として期待されること

#### ・課長等研修

平成二十四年九月二十六日 (研修内容)

- 一 理事長挨拶
- 二 長期・中期・実行計画の考え方と策定の仕方

三 施設種別単位での次期基本計画に取り組むべき項目とまとめ

#### ・主査研修

平成二十四年十月二十四日 (研修内容)

- 一 理事長挨拶
- 二 組織人として期待されること

### 特別研修

#### ・交通安全教室

平成二十四年四月二十六日から平成二十四年六月二十一日

#### ・リスクマネジメント研修

平成二十四年五月三十日から平成二十四年九月二十五日

#### ・新任職員外部セミナー(鹿児島地域経済研究所)

平成二十四年四月十九日から平成二十四年五月十七日







## 鹿児島市障害者雇用優良事業所として表彰されました

鹿児島市は、市内の事業所において、障害者の雇用の促進と就労機会の開発について、その功績が顕著であり、他の模範となる事業所の表彰を、障害者雇用支援月間である9月に行っています。

平成24年度の表彰事業所として当事業団が決定され、平成24年9月3日、鹿児島東急インにて表彰式がありました。

全ての事業主は、障害者雇用制度において法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務があります。現在の法定雇用率は、1.8%ですが、平成23年度の当事業団の法定雇用率は、4.59%と大きく上回っています。当事業団が表彰されたのも、多種にわたる社会福祉施設を運営しているノウハウを活かし、積極的に障害者の方々の雇用推進に努めてきた結果だと思えます。

これからも、より一層、障害者の方々が働きやすい環境作りに努めるとともに、県民福祉の増進に努めていきたいと思えます。



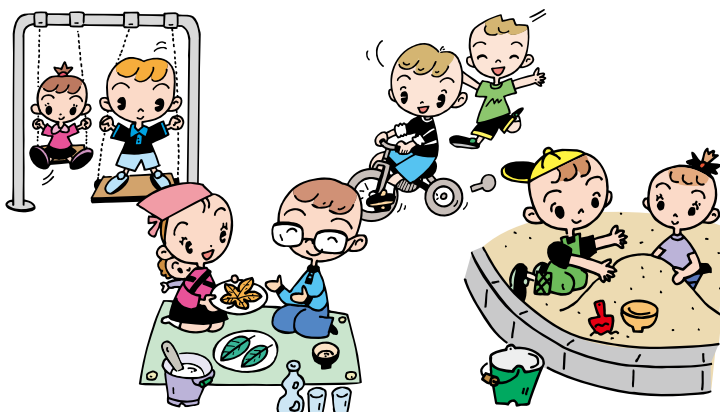
### 毎月19日は「育児の日」～子どもは未来からの預かりもの～

仕事と家庭の両立のためには、職場のサポートが必要不可欠となっています。当事業団でも「かごしま子育て応援企業」として登録し、職員が仕事をしながら安心して子育てや介護等を両立させ、充実した職業生活を続けられるような環境づくりを進めています。

鹿児島県では、毎月19日を「育児の日」として、子育てを地域全体で応援する気運を盛り上げていくこととしています。

- ・早めに帰宅し、家族そろって食事できていますか？
- ・子どもと一緒に過ごせていますか？
- ・地域の子どもたちの見守りしていますか？

**19日は、いつもより子どもたちの笑顔を増やして、元気をもらおう！**



シリーズ男



同胞保育園 園長 東 忠昭 さん

今回は、同胞保育園で園長として頑張っておられる東忠昭さんにお話を伺いました。

Q：事業団に勤務されて一番印象に残っていることは何ですか？

A：今まで、ほとんどの施設（鹿児島みなみ保育園以外）で勤務しました。二ヶ月半という短い勤務地のところもありましたが、それぞれ印象深いものがあります。その中でも、二回勤務した霧島学園が一番印象に残っています。

一回目に勤務した時は、園舎は、新築されていて、お風呂には温泉が引かれていたり、部屋には床暖房が設置されるなど、子どもたちにとってとても生活しやすい環境になっていました。霧島連山を背景に四季折々の季節感があり、すばらしい環境の中に霧島学園は存在していました。地域に密着し、子ども達も生活しやすい環境が整っていて、私たちも仕事やりやすい環境でした。二回目に勤務した時は、少子化に伴い児童養護施設の入所児童数も減少傾向にあり、学園が閉鎖されることになりました。多くの子どもたちは、仁風学園、若葉学園に措置変更

されました。しかし、数名の子どもたちは、他の児童養護施設に措置変更となり、私は、三名の子どもを職員二名で慈光園、友愛学園へ引率して行きました。その時の別れがつらくとても淋しかったことが印象に残っています。

Q：今、一番興味のあることは何ですか？

A：健康診断の数値です。今年、いつも歩くことを心がけたり、食事に気をつけるようにしたらメタボが解消されました。まだ、血糖が少し高めですが、万歩計を常に持ち歩くようにしています。

Q：座右の銘は何ですか？

A：継続は力なりです。惰性でダラダラ続けるのではなく、ある程度こうありたいという目標を定めて継続していくことが大事であると思います。また、挫折を乗り越え地道に努力し、積み重ねていくことが力になると思っています。

Q：事業団に勤務している後輩へメッセージをお願いします。

A：一生懸命のあまり、自分だけの感性や価値観にとらわれ、常識や価値を押しつけたら自分の枠にはめ込んでやりすぎることもあると思います。しかし、様々な選択肢が存在することを理解し、「こうあるべき」といった型にとらわれない柔軟さが必要です。がむしゃらに物事を進めず、疲れを感じたら小休止することも大事ですよ。

いつも笑顔の東園長、貴重な時間をありがとうございました。ぜひ、今後の参考にさせていただきます。

インタビューア 同胞保育園 江崎理恵

おめでとう

表彰

厚生労働大臣表彰

東 忠昭（同胞保育園）

白井 英雅（若葉学園）

川邊 裕樹（若葉学園）

鹿児島県知事表彰

重田 ひとみ（仁風学園）

全国社会福祉協議会会長表彰

重田 ひとみ（仁風学園）

鹿児島県社会福祉協議会会長表彰

平田 かよみ（慈眼寺寿光園）

鹿児島市社会福祉功労者表彰

松林 大生（仁風学園）

全国社会福祉事業団協議会永年勤続表彰

堀之内 満（仁風学園）

岩崎 里美（錦江寮）

益 美詠（菊花寮）

山本 恭子（事務局）

資格取得

介護福祉士

松林 大生（仁風学園）

別府 俊一（ゆすの里）

お役立ち情報

簡単レシピ

今話題の塩麴を使ったメニューを紹介しします。お年寄りに喜んで食べてもらっています♡

鮭の塩麴漬け焼き

- 鮭……………1切れ  
(鶏肉や別な魚でも可)
- 塩麴……………材料重量の1割
- 塩

<作り方>

- 1 鮭はペーパータオルなどで水気を拭き軽く塩を振る。
- 2 水気を再び拭き保存袋などで塩麴を全体にまぶし置いておく。(家庭なら一晩)
- 3 鮭を焼いていく。麴の分焦げ目がつきやすいが、こんがりとした良い香りがします。  
※麴に漬けることで鮭が柔らかく、ふっくらと焼け食べやすくなります。

栄養豊富

発酵食品である塩麴には、麴の酵素による原料の分解だけでなく、乳酸菌や酵母などの微生物の働きも加わって、**ビタミン(B1、B2、B6、パントテン酸、ピオチン(ビタミンH))**なども豊富に含まれ、単体の塩に比べて多くの栄養素を含んでいることから、塩麴として出来上がった時点で**栄養豊富**。これらは脳の代謝を上げる働きや疲労回復効果が得られると考えられています。 栄養士及び調理師部会より